



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】 質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO.16 R5.11.15

文責 学校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

美しいお辞儀 —足先の向きは心の向き—

武高坂で、振り返り、車に向かって一礼する生徒さんの姿に感激したことを以前書きました。日本には「行き逢う時の礼」という作法があります。

例えば廊下や道路では中央が上座で、端が下座。神社にお参りする時に参道の真ん中を歩かないのは上座になるからです。

先日、校内で素晴らしいお辞儀に出会いました。その生徒さんは廊下の端を歩いている。私もその反対側の端を歩いていました。すれ違う時、その生徒さんは私の少し手前で立ち止まり、私の方に足先を向けて会釈（軽い礼）をした。しかも、とても自然な感じで。



すれ違うときに挨拶を交わすのは当たり前^の作法としても、狭い廊下で足先をきちんと相手に向けて一瞬立ち止まってとてもいい感じのする会釈をするのはあまり見たことがありませんでした。人として信頼できる人だなとすぐに感じました。

きれいなお辞儀は頭、首筋、背筋がまっすぐになっています。意識すればだれでもできるのですが、相手を感動させるのは相手の方にきちんと心が向いているからだと思います。

私事ですが東京の行政機関で仕事をしていたころ、民間企業から出向していた若い同僚が腰から直角に折れるくらい深いお辞儀をする姿を見て、教員の自分にはなかった姿勢だと感心したことがあります。“公務員は頭が高いんだよな〜”と猛省しきり。

そういえばある講演会で「人はすぐ「〇〇のせいで」と他人のせいにしてしまいがちだけど、意識して「〇〇さんのおかげで」と相手に感謝するようにすると見える世界が変わってきます」という話を聞いたことがあります。

この美しいお辞儀の生徒さんを見ながら、“さすが武高生！”とうれしく思うとともに、「人のために」という発想を自分自身の思考や言動の基本に据えたいと改めて感じたところ^{です}。いがみ合いからは何も生まれませんものね。

GIGA スクール時代を生きる君たちへ —正解のない問いに向けて—

ギガスクール構想という言葉聞いたことがあるでしょう。文部科学省が主導して全国的に ICT を活用した教育を推進します。

「ギガ」は「GIGA」で、「Global and Innovation Gateway for All（グローバルな技術革新への扉を全ての子どもたちへ）」という意味です。日本は扉の向こう側の世界に向かって大きな変革期にあります。

いち早く ICT に取り組んできた佐賀県そして武雄高校は、PC を文房具的に使いこなす、自分の判断で日常的に使う新たなといった段階へ進まねばなりません。

ところで、これからはいわゆる“成績のいい人”の基準は次のようなものになると言われています。GIGA スクール構想が目指す人物像と考えていいでしょう。



- ① 問題を発見できる人
- ② その問題をプレゼンできる人

- ③ 正解があるかどうか分からない問題の正解を求めて探究できる人
- ④ 探究の結果をプレゼンできる人
- ⑤ プレゼンを聴いて、質問のできる人
- ⑥ 自分の考えを積極的に述べてディスカッションできる人

そして10年もすれば、皆さんを含め、このギガスクール構想で育った第一世代が、大学卒の新入社員として、会社に入り活躍する。こうした世代が、20代、30代で社会を変革させる、そのような状況がこの国のいたるところで起こってくるのではないのでしょうか。

こうした中、武雄高校は右のような考え方でICT活用を推進しています。基本は主体性が大事だということです。皆さんが自ら問いを見つけ、その問いについて自分の頭で・自分の言葉で考える、つまり“思考”する習慣が身につくことを期待しています。

佐賀県立武雄高等学校のGIGAスクール構想		1
【1】GIGAスクール構想の目的 -ICTを「道具」として学ぶ-		
①一人一人が情報端末を使って、「主体的・対話的で深い学び」を実現するとともに、「学習の基盤となる情報活用能力」を身につける		
②「自分で学ぶ、自分の学びを自分でデザインする」力を身につける		
【2】情報端末を道具として使っていくということ		
①「学び方を学ぶ」道具		
ア 自分で調べ、記録し、それらをつなげて再利用する		
イ 友達に伝え、対話から得た情報を付け加えながら考えを更新する		
ウ 確実性の高い材料(教員の説明等)と照らし合わせながら理解を確かなものにする		
②「つなぐ」道具		
ア 教科や領域を越えて学んだ成果をつないで学ぶ		
イ 家庭学習とつないで学ぶ		
ウ 他者とつないで学ぶ		
エ 蓄積された履歴を振り返ることで、過去に学んだことと今学んでいること、これから学びたいことをつなぐ		
【3】これまでのICT活用との違い		
①教科や領域等を越えて、日常的に、それなりの頻度で確実に活用する		
②様々なデータを個人のものでクラウドに蓄積する		
③調べたことをまとめる、発表する、振り返るなどICTを活用する機会を増やす		



課外活動でキラリ！ ～書道で日本一・弓道で九州～

本校は“コンピテンシー（優れた成果を出せる人に備わる能力や行動の特性）”や“教科横断的な力”を育むためにも課外活動を奨励しています。今回は大舞台で活躍の二人の紹介です。



左は古川さん、右は高円宮様

古川^{まどか}圓さん（2年）

第39回高円宮杯日本武道館書写書道大覧覧会で最高位の高円宮賞を受賞しました。この書道展は幼児・小学生から大学生・社会人まで幅広く出品する作品展で約2万点の中からの第一席でした。「これからも人の心を動かせるような作品を書きたい」と抱負を語ってくれました。研究と集中力のたまものですね。おめでとうございます。



第2射場の一番手で弓を引くのが荒川さん

荒川^{かほ}花歩さん（2年）

第31回九州高等学校弓道新人選手権大会において女子個人優勝を果たしました。「大勢の観客が見てくれている中で弓を引くことができる幸せを感じた。次は団体で取りたい」と次を見据えるやいなや、翌週に開催された第42回全国高等学校弓道選抜大会佐賀県予選会で堂々の団体優勝（荒川花歩さん、川野真央さん、野中理加さん、古賀由夏さん）！ 今度は団体での活躍を期待しています。



荒川さん

【当面の主な予定（11月後半）】

- 21日（火）産業人講演（1・2年）
- 24日（金）期末考査（1・2年、29日まで）
- 25日（土）3年全統プレ（26日まで）
- 28日（火）3年共通テスト対策（29日まで）
- ※18日（土）「武雄de花火」は校地内から観覧できます。

（閑人閑話）5年ぶりに当選した福岡マラソン。気分は上々のはずだった▼「フルマラソンに出たら人生観が変わるよ」と走り始めた。コロナで中断の時期はあったが年に1〜2回はエントリーするようにしている▼初めは記録なんか気にしないで走ることで自分が楽しかった。しかし最近記録が気になる▼人生を潤す目的にその手段として始めたマラソン。なのにマラソン自体が目的化してしまう▼この落とし穴に陥る危険性は受験生活にも多い。気を付